丸山湿原群保全の会会報

（第 143 号）

発行日：2019 年（R1）６月 12 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

６月に入り田植えも終わろうとしています。あとは梅雨に入り、雨が適量降るのを待つばかりとなりました。冷夏のうわさもちらほら出ていますが、西日本はまず大丈夫でしょう。局地的な豪雨は心配です。といいながら、毎年少雨に悩まされる西谷です。

今年の花の咲き方ですが、同じ種が一斉に咲いたような気がします。マルバアオダモ然り、ウツギ（卯の花）然り、それにホウノキの花も「こんなに！」というぐらい目立ちました。逆に遅霜にやられた種もたくさんあったようですが…。今年は種をたくさん残さなければ、と植物たちが考えたのでしょうか？何かやって来る？天変地異？悪く考えるといけません。生物多様性が謳歌した、と考えましょう。でも心配…世界情勢はきな臭い。最大の環境破壊が起こるかも？

（今住　６月 11 日作成）

定期活動　★5 月 26 日（日）定期活動　竹筒ポスト新調　入口平場雑木整理　その後観察　７名で活動

駐車場に行ってみると孟宗竹が置いてあるではありませんか。会報を読んでいただいた方か、はたまた気の利いた会員さんがそっと寄付してくださったのか？とにかく、**ついに竹筒ポスト新調となりました。今回は少し工夫を。おふざけが過ぎると怒られるかもしれませんが、竹筒ポストの意義？とご利益をパウチしました。**SNS 全盛時代。「映え」を意識したかったのですがちょっとそこまでは…若い人が少ないもので。ついついウケ狙いのほうに走ってしまいます。**さて、効果のほどはどうなるでしょうか？次回のカウントの日が楽しみです。ブログを見ていただいている方からも問い合わせがあり、「あの竹筒まだ使ってたんですね。新しくなったのには入れます。」と連絡がありました。ウケ狙いの内容は画像添付します。**ご利益関係で御朱印も始めたらと思ってい

伝説の
竹筒ポスト

この看板の両端にある竹筒は、丸山湿原に来られた方の人数を確認するためのものです。
月１回確認し、「丸山湿原群保全の会会報」に掲載しています。しかし、目立たない、意味が分からないと一般の方はほとんど誰も入れない**伝説の竹筒ポスト**といわれています。
今回新調するに至り、**幸運の伝説ポストとし、気がついて下の小石を入れた方には必ずや幸運が訪れる事を保証はできませんが、会員一同一緒にお祈りいたします。**
気が向いたら、ハイキングでも湿原観察でも登山でもデートでも散歩でも研究でも何でもかまいませんので、**下から一人一つ石をお入れください。**

幸運が訪れるかもしれません！

丸山湿原群保全の会　2019.5.26
お問合せ　maruyamashitugengun@gmail.com
西谷地区まちづくり協議会内　0797-91-1788
丸山湿原群とその周辺は兵庫県の天然記念物です

おふざけが過ぎる？　伝説紹介

置かれていた孟宗竹

竹があるなら作らねば

完成したポスト

ます。「丸山大明神」とでも…アニミズム（里山）信仰の聖地として神社庁非公認でいきましょう。しかしもともと御朱印は寺のもののような気がしますが、最近は神社も多いようですね。江戸期までは神仏習合が一般的なので全く問題なしか？すいません。またおふざけ、話題がずれました。**竹筒ポスト新調の結果は後半に記載。**

ポスト前の平場の整理ですが、ほんの少しずつ進展しています。非力な上に短時間の活動なので１回で数メートルの処理。翌年にはまたたくさんのササやイバラが繁茂。しかし、比較的大きな木本類の処理は効果が出ています。

ツチアケビ新芽　左奥にも

毎年この付近には丸山名物ツチアケビが確認できます。なぜかこの平場だけです。強力なナラタケ菌の温床となっているのか、不思議です。どこにでもありそうなものですが。ところが今年はなかなか見つからない。今年はダメかと思っていました。ブログを見て来られた方にも（「ブログを見て来ているのよ」と声掛けしていただいた時には涙が出そうにうれしかったです）、「今年はまだ見つかっていません」と答えていました。

すると、作業中に「あったよー」と手作業の会員さんから。ありましたありました、アスパラガスいやツチアケビ（土木通）が。アカメガシワ（赤芽柏の大木？）の根本からニョキニョキと。また想像が膨らみます（妄想癖あり）。**昨年のツチアケビの唐辛子（ソーセージ？）のような実をヒヨドリが食べ、近くのアカメガシワの木へ。「ヒーヨ　ヒーヨ」と鳴きながら未消化の種とともにポトリと。運（うん）よくナラタケ菌と出会い発芽かな？想像です。ナラ枯れのナラ菌とは別ものですのでご注意を。ナラ枯れの原因物質はカビです。和名がついていないそうでとりあえず「ナラ菌」と呼んでいるようです。ちなみにナラタケ菌は名前の通りキノコのナラタケを生やします。**

キノコについては、**「西谷の森公園」で７月 20 日(土曜日)10 時から。題名：「森にキノコを探しに行こう！」講師：奥田彩子 先生（兵庫きのこ研究会)のお話とフィールドワークがあるそうですのでご興味のある方はご参加ください。お問い合わせは「兵庫県立宝塚西谷の森公園」まで。**

ツチアケビです。早速、活動当日ブログにアップしたところ、うれしいことにまた書き込みが！「ツチアケビあったのですね」と。**この日声掛けしていただいた方です。「時期を見てまた見に行きます」と。後日また連絡あり。「ありました」と。さらに「昨年の株の真ん中からもまた出ていましたよ」と情報までいただきました。気持ちはウキウキです。ブログ見てくれてるんだ！頑張って続けていきます。ご興味のある方はぜひ覗いてみてください。「丸山湿原群保全の会」でヒットします。**作業は疲れるまでしないのが丸山流。早々に終えて湿原へ（この時点で私は所用のため帰宅、また行ったように書きます）。ハッチョウトンボ（八丁蜻蛉）が前回より多く飛び出し、トキソウ（朱鷺草）も開花が多く見られるようになりました。イシモチソウ（石持草）はそろそろ終わりかけ。もっと数が増えると花期が長くなるのですが、なんせ数が少ない。しかし徐々に株数は増えてきています。トキソウはもうしばらく楽しめると思います。

ハッチョウトンボ♀

トキソウ

イシモチソウ

定期活動

★6 月 8 日（土）定期基礎調査・巡回、観察、外来種除去　ごみ処理　　午後定期総会
16 名の参加

目的	市内	市外
丸山	59	57
ハイキング	22	22
その他	11	19

来場者数　計 190 人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：03	23.7℃		
第３湿原	10：35	【20.6℃】	34.0μS/cm	6.6
視点場	10：57	24.0℃	34.9μS/cm	6.2
第１湿原	11：09	【23.8℃】	40.6μS/cm	6.6
第２湿原	11：53	【22.2℃】	43.2μS/cm	6.7

えへへ…ホンマかいなそうかいな！という数字ご覧いただけますか？竹筒ポストからはカウントの石があふれそうで、「もっと深くしないと」と意見が出ています。いたずら？かな？と疑心暗鬼は続きますが、もう「誰も入れない伝説の竹筒ポスト」とは言わせません。「誰かは入れてくれる伝説の竹筒ポスト」です。「幸運の伝説ポスト」です。なんで幸運になるのかはよくわかりませんが…丸山湿原群保全の会の会員が念力を送り続けます。逆に怖かったりして…

あふれそうな石

竹筒ポスト人数に若干の満足感を感じながら、連絡のあったツチアケビを観察。見事に、枯れた株の真ん中から出ているではありませんか。多年草といわれますが菌従属栄養植物（腐生植物）。同じところから発芽することはめったにないような？言ってることおかしいでしょうか？間違ってたらご指摘ください。多年草というのがそもそも間違いか？古い図鑑には書いてありますが。とにかく全く同じところから生えるのは非常に珍しいと思います。近くからは生えます。毎年この平場に登場し、アイドルとして皆さんを迎えてくれる「光合成ををやめた植物」。しかしナラタケはそんなに生えませんがね。昨年はナラタケモドキをいただきましたが…

折れたツチアケビ

昨年の株中央から発芽

前回確認していたツチアケビは一本が折れていました。人のせいとも考えられますが、木の幹に傷があることからシカではないかと考えています。シカの角研ぎには早過ぎる気がしますが…ま～そういうことにしておきましょう。

湿原へ向かう道。ササユリ（笹百合）に心をときめかせ、タゴガエル（田子蛙）をいじり、コアジサイ（小紫陽花）の香りを楽しみ、ウツギ（空木＝卯の花）の白さに「奥の細道　平泉」を思い出して涙しつつ歩きました。嘘です。ちょっとカッコつけました…

ササユリ

湿原は第３湿原にトキソウが多く咲いていました。ほかの草本類が伸びるに従って目立たなくなっていきますが、かなりの数です。歩道からの写真は望遠持参でないと

タゴガエル

無理かと思います。でもちゃんと踏み込みの後もありますから困ったもんです。１人２人なら問題ないのですが、「歩く人が多くなれば道になる」。どっかで聞いたような。今回は実に文学的です。道は作らないこと！残念ながら第４湿原でも昨年同様見られます。カキランも咲き出す時期、湿原内への踏み込みはくれぐれもないようにお願いいたします。

トキソウの群生？

もう一つ悲しむべき被害。かのちゃん、のんちゃん、あいちゃん。さらに、かっちゃん、マーボー、ギル。落書きはダメでしょう。神様が見ていますよ。今回は肥後守（ひごのかみ）のお出ましです。しかも１年ぶりに登場の仙人に憑依して。肥後守といっても若い人はわかりませんね。神様のカミではありませんがうまく処理して消していただきました。今後も注意して見回ります。

支柱に書かれた落書き

肥後守が憑依した仙人　お見事！

第１湿原視点場正面付近が裸地に近い状態なのに気づきました。ちょっと前なら、盗掘を疑うところですが、まずそれはあり得ない。よく観察すると、モウセンゴケ（毛氈苔）などが多数見受けられます。おそらくシカによる食害と思われます。午後の総会に参加された顧問の内田さん（東京大学大学院助教）によると、湿原内ではぬかるみに足がとられてシカの行動が抑制されるとのこと。ほとんど移動せず草を食べるので、群れでなければかえって適度な攪乱につながる、との研究論文があると教えていただきました。以前ヌマガヤ退治に根こそぎリター（表土）ごと取り除く作業をしましたが、それに近い状態でした。シカの動静は気になるところですが、今はいいように考えることにしましょう。

シカの食害（食益？）

裸地に出たモウセンゴケ

ピンボケ　ブタナ

最後にもう一つ。第２湿原で咲いていた黄色い花。なんとブタナ（豚菜）。要注意外来種で駐車場には多く咲いています。タンポポに似たかわいい花で大きく育ちます。適応力に優れ全国に分布。おそらく服や靴に付いて、もしくは動物が運んだのかもしれません。私たちかもしれません。１株だけの確認で除去しましたが、こちらも要注意です。気を付けなければ…

連　絡2019年度総会報告　会員総数28　出席16+委任8　欠席4　議案は全て承認されました。　近日中にガイド研修（７月27日（土）四国まんのう公園）の案内を差し上げます。

次回活動日　６月 23 日（日）７月 13 日（土）28 日（日）？　８月 10 日（土）